

「地元定着」が若年無業者に及ぼす影響について

高橋主光

(東京大学大学院経済学研究科博士課程)

要約

本稿では、地元への居住志向に関する設問を含むウェブ調査を用いて、地元定着が20～39歳の未婚無業者に及ぼす影響を実証分析した。本研究では「地元定着型」無業者を「地元居住（中学時代に住んでいた市区町村と同じ市区町村に居住）」および「居住継続意思（将来、違う市区町村に住みたいと思っていない）」の両方からなる無業者とした。プロビット分析の結果、地元定着型無業者として、男性、若年、要介護あり、いじめ経験なし、などの特徴がみられた。地元定着が求職にもたらす効果としては、地域密着の情報を持つメリットと、情報や機会が限定されるデメリットの両面が考えられる。分析の結果、地元定着は無業者の求職活動を有意に抑制することが明らかとなった。その結果は、家庭内での経済的余裕や要介護の状況を制御した上でも観察される。さらには無業者個人の生活規則性や精神的不安定を考慮しても尚、地元定着は有意に求職活動を阻害していた。就業希望への影響も、求職活動と同様の結果が得られた。以上の結果からは、無業者にとって地元定着は、多様な就業機会へのアクセスや選択肢を狭め、結果として就業に向けた行動を抑制している可能性が見て取れる。労働力率もしくは就業率向上に向けた経済学的観点からの政策含意として、地元からの転出を促す無業者個人への助成や支援の必要性が示唆される。